

囲碁交流による健全な児童、健全な家庭、潤いのある地域社会づくり事業

【支援金確定額：210,298円 支援率：50%】

取材日：平成23年（2011年）11月9日

■どのような活動をされていますか？

囲碁は考える力、集中力を培う最高の知的ゲームであると同時に、対局マナーを通じ、しつけ教育、人間教育にも大変有効なものです。当会はこの囲碁の普及・囲碁交流を通じて、「健全な児童の育成」、「潤いのある家庭づくり」、「健全な地域社会づくり」を目指して活動しています。

具体的には、幼稚園、小・中学校、児童ホーム、公民館等で子供囲碁教室を開催し、親子対戦等による家族間のコミュニケーションの促進を、地域イベントでは、地域の仲間を巻き込んだ、世代を超えた交流の場づくりを行っています。



自分の頭で考え判断する力を

■支援金をどのように活用されますか？

年間を通じて、30数か所で1,000名を超える児童の指導を行っており、支援金の多くはその教材費として活用しています。

あまり囲碁経験のない子供達を指導する場合には、ルールを教えるだけでなく、興味を持たせるように工夫することが重要と考えており、教材として、参加児童全員が実際に囲碁を体験できるよう、「紙製の9路碁盤」等を使用しています。これは自宅に持ち帰って、親子対戦等、家族でも楽しめるように配慮をしたものです。また指導環境を充実するため、講師用の教材整備にも有効活用しています。



囲碁は一局で百年の知己が得られる濃密なコミュニケーションツールです

■今後の活動の抱負を教えてください。

囲碁は知的ゲームというだけでなく、幅広い人間形成に役立つものと確信しています。その囲碁をより一層普及するため、幼稚園、小学校、公民館等との協働の下、囲碁教室の開催等、指導の場を増やすことに力を入れ取り組んでいきます。子供達の励みとなるよう、囲碁大会の開催をもっと増やしたいと考えています。

また、学校教育やクラブ活動への囲碁の取り入れが進むよう、関係の方々へのPR、働きかけも強化したいと思っています。

～取材を終えて～

船橋小学校「伝承クラブ」の子供達（4～6年生）への囲碁の指導取材しました。講師は会の代表山下さんと、事務局長の楠本さんです。最初に驚いたのが、教室に向かって廊下を歩いていると、低学年の児童から「こんにちは」と大きな声の挨拶。「幼稚園時代に指導した子供ですよ」とのこと。このフレンドリーで元気な挨拶を目の前にし、「論より証拠」、会の目的を十分に理解できた感じがしました。

教室では指導の前にまず挨拶、そして対局の前にもまず挨拶の実践指導、「両アタリ」や「劫（こう）」等囲碁の専門用語も使いながらの指導で、子供達が自ら必死に考えている姿が大変印象的でした。

■関わり先（連絡担当者）：事務局長 楠本 和弘（くすもと かずひろ）

TEL：047-475-3176